

多文化共生教育支援事業報告書

1 委託業務名・概要

(1)業務名 公立小中学校と外国人学校による教育連携プロジェクト

(2)概要（事業の要約・事業の目的など）

地域に在住する外国籍児童生徒は、外国人学校及び公立小中学校に通学している。

外国籍児童は通学する学校の教育環境により個別な課題を持っている。

本事業は、公立小中学校と外国人学校との連携共同事業をNPOが進めることで、相互理解と継続的連携を構築し、外国籍児童生徒の教育環境の整備を図ることを目的とした。

外国人学校と地域公立小中学校 授業参観事業

外国人学校と地域公立小中学校の連携による外国籍児童生徒学習支援事業

地域公立小中学校の外国人学校への教育支援事業

市民による日本語教育や学習指導事業

2 実施事業について

(1)実施時期 平成 17 年 7 月 1 日（金）～平成 18 年 2 月 28 日（火）

(2)実施地域

・西尾市立鶴城小学校（児童数 650 名）

・西尾市立鶴城中学校（生徒数 900 名）

・Escola Alegria de Saber（エスコラ アレグリア デ サベル）碧南校

（外国人籍児童生徒数 274 名）

以下 EAS と表記する。

(3) 事業の具体的内容

外国人学校と地域公立小中学校 授業参観事業

西尾市立鶴城小中学校授業参観

7/5（火）AM 鶴城小学校授業参観 参観者 EAS 児童 14 名 教師 4 名

鶴城小 5～6 年生 6 クラスの授業を、EAS 5～6 年生児童が 4 グループに分かれ見学した。鶴城小の先生方が授業への積極的な呼びかけにより、参加型の授業参観を実現した。

7/5 (火) PM 鶴城中学校授業参観 参観者 EAS 生徒 16 名 教師 6 名

鶴城中 1 年生 6 クラスの授業を、EAS 7~8 年生徒が 4 グループに分かれ見学した。玄関に歓迎のメッセージを受け、見学前後に意見交換の時間を設けた。

EAS 授業参観

7/19 (火) 10:00 ~ 参観者 鶴城中教師 3 名 生徒 1 名

EAS 教頭の案内により、全学年の授業見学を実施。4 名ともブラジル人学校の訪問は初めてであった。鶴城中在学中のブラジル籍生徒は通訳として同行した。

8/31 (水) 10:00 ~ 参観者 鶴城小児童 12 名 教師 3 名

EAS のスクールバスでの送迎協力により実現。EAS 5~8 年生の授業を、鶴城小 6 年生児童が 3 グループに分かれ見学した。見学後、同校食堂にて意見交換会を実施、ブラジル菓子等のもてなしを受けた。

外国人学校と地域公立小中学校の連携による外国籍児童生徒学習支援事業

西尾市立鶴城中学校音楽教師による EAS での音楽授業

11/30 (水) 12:30 ~ 鶴城中 音楽教師 1 名 EAS 生徒 30 名

音楽授業のない EAS で、鶴城中音楽教師による授業を実施した。日本の文化のひとつである音楽を、日本人音楽教師が EAS で音楽授業を行うことにより文化だけでなく日本の授業を体験することができた。日本の歌の選曲や当日使用した楽器の提供を鶴城中教師から受け日本とブラジルの歌をそれぞれ 1 曲練習し、合唱できた。

地域公立小中学校の外国人学校への教育支援事業

西尾市立鶴城小中学校プール施設開放

7/28 (木) PM・8/1 (月) AM 鶴城小学校プール施設開放

EAS 児童 20~50 名 教師 5 名

鶴城小学校プール施設開放を実施。EAS にはプール施設がないため体育教師を同行し体育授業の一環として実現できた。鶴城小児童との交流を図りながら(7/28) また EAS 児童のみの開放日(8/1)も設定した。

8/15 (月) AM・PM 鶴城中学校プール施設開放

EAS 生徒 7~10 名 教師 2 名

鶴城中学校プール施設開放を実施。EAS にはプール施設がないため体育教師を同行し体育授業の一環として実現できた。日程がお盆休みであったため、参加人数が少ないのが残念だった。

市民による日本語教育や学習指導事業

EAS にて日本語・日本文化教育の実施

9/13・20・27 10/4・11・18・25 11/8・15・22 12/6・13・20・23

毎週火曜日 12:00～全 15 回×2 時間実施

EAS の場所提供により、日本語教師専門学校卒業生による日本語クラスを児童生徒の年齢や日本語レベル、希望学習内容に沿って実施した。特別な呼びかけはしなかったが、児童生徒が自然に集まり学習の輪が広がっていった。

鶴城小中学校取り出し授業見学

10/20(木) 10:45～ 12/7(水) 9:45～ 鶴城中取り出し授業見学

日本語教師 2 名

鶴城中には、フィリピン国籍の中学 3 年生徒が在籍する。体育や音楽などの活動的な授業は在籍クラス生徒とともに受けることができるが、日本語力不足により科目によっては日本語での授業を受けるのは困難である。そのため、別室にて取り出し授業担当教師が日本語教育を行っている。見学した際に、授業の進め方、教材やカリキュラムについての情報交換を行った。

12/21(水) 9:35～ 鶴城小取り出し授業見学 日本語教師 2 名

鶴城小には、現在 31 名の外国籍児童が在籍している。ほとんどの児童が在籍クラスで授業を受けているが、日本語力不足により科目によっては日本語での授業を受けるのは困難である。そのため、別室にて取り出し授業担当教師が児童の母国語と日本語で各教科の授業を行っている。ブラジル人囑託社員も常勤している。見学した際に、授業の進め方、教材やカリキュラムについての情報交換を行った。

3 実施結果（実施の効果等）

授業参観事業では、日本の公立小中学校を初めて訪問した児童生徒が多かった。

鶴城小授業参観

鶴城小の先生方が、EAS 児童へ質問や参加を促してくれた。計算方法の違い(算数)

や、出身地域の気候の説明(理科)などを紹介・発言し授業に参加することができた。また参観後には、授業の感想やお互いの学校の相違点などの意見交換が行われた。図工の授業に興味を持った児童と教師が多く、今後は EAS でも図工の授業にもっと力を入れていきたいという意見が多かった。

鶴城中授業参観

EAS では、コンピューターの授業以外の教室移動がないため、理科室や音楽室での実験道具や楽器を利用した授業に興味を持つ生徒が多く、EAS でも今後授業に色々な活動を取り入れて欲しいと生徒から意見が出た。また、日本の歌を覚えて一緒に歌いたいと意見交換会で発言があり、鶴城中校長がぜひ歌の交流を実現したいと約束した。

また、校内が清潔に保たれているので EAS も見習っていこうと EAS 教師が生徒に対して呼びかけた。

EAS 授業参観(鶴城中)

EAS での授業内容や様子を見ることにより、公立小中学校と外国人学校間の転入・転校生に携わる取り出し授業担当教師も、今後の取り出し授業内容への工夫を図ることができ、取り出し授業対象者となる外国人生徒への理解やアドバイスに大いに役立てることができる。

EAS 授業参観(鶴城小)

図工の授業のクラスでは折り紙が課題であったため、児童同士の交流が図れた。

授業終了後は、出来上がった作品をお互いに交換するなど言葉の壁を越えた場面も見受けられた。意見交換会では、児童の意見だけではなく教師同士も教育や社会生活の多方面にわたる意見が飛び交い、今後も両校の親交を深めていこうと話合った。

鶴城中音楽教師による EAS での音楽授業

日本の歌の選曲は鶴城中教師に依頼し「風になりたい」に決定。授業の様子を見ていた EAS 教頭がクリスマス会で歌の披露をしたいと提案があった。音楽教師が用意した楽器に生徒が興味を持ち授業後も、質問をするなど生徒と教師の交流も図れた。日本の歌を歌うことにより、経験したことのない合唱を体験し、日本文化に触れることができた。

鶴城小中プール施設開放

鶴城小児童と一緒に入った日は準備運動指導を鶴城小児童が行い、プール用具の交換、用具使用方法の説明を通じて交流が図れた。EAS の訪問時と帰校時の挨拶がとても礼儀正しく、両校とも来年もプール開放を実施することを約束した。EAS には運動場や体育館やプール施設がないため、中学年からの体育の授業がない。当日は、体を動かせることを本当に喜んでいた。

市民による日本語教育や学習指導事業

EAS にて日本語・日本文化教育の実施

EAS 児童生徒の日本語レベルはさまざまである。指導開始当初は、全く日本語の言葉も発しない就学前の児童が自分の名前を書けるようになり、後半には日本の言葉も増え日本語でコミュニケーションをとろうとする姿がみられた。授業で使用したプリントを、自宅に持ち帰り保護者に見せたり、または教えたとの報告も受けることができた。

鶴城小中学校取り出し授業見学

取り出し授業で使用するテキストの紹介や、プリント作成の注意点等の情報を交換し今後の連携をすすめていくことに決めた。取り出し授業担当教師としての情報と日本語教師としての情報の発信元は必ずしも同じではないため、今後とも協力し合いながら効果を出していけるようお互いの専門分野の情報交換や地域や外国人学校との連携に取り組んでいこうと話し合う事ができた。

4 事業の特質（工夫した点など）

授業参観事業

児童生徒への注意事項を移動中のバス内で行い、各グループに引率の教師を配置した。教室内や廊下の掲示物や展示物も自由に見ることが出来た。待機場所を図書室とし、本の閲覧もでき、児童生徒同士の交流を図った。

全日程で意見交換の時間を設定することができ、現場の声を伝えることにより児童生徒同士、教師同士の交流も図れた。

鶴城中音楽教師による EAS での音楽授業

選曲や授業内容は、鶴城中音楽教師と事前に打ち合わせをして決め、EAS で利用できる楽器や機材を確認し当日はスムーズに授業をすすめることが出来た。人前で歌うことが初めての生徒が多く最初は恥ずかしがっていたが、選曲がサンバのリズムであったためか生徒もだんだんと積極的になり、準備した楽器を使ってとてもよい雰囲気での授業を

実施することができた。

鶴城小中プール施設開放

EAS 体育教師が同行し、体育授業と自由時間を盛り込み児童生徒達もおおいに楽しめた。プールの大きさ、深さ、数、ルールについても事前に EAS へ情報を与えたのでトラブルもなく、今後もルールをしっかりと守っていけば、継続しやすい事業であると確信した。

EAS にて日本語・日本文化教育の実施

EAS から食堂と教室の提供を受け、集まりやすい環境を設定した。参加年齢は就学前児童～8年生生徒と幅が広く、日本語レベルもさまざまであるため、レベル別に内容を変えた教材等を準備した。児童生徒が、希望する学習（漢字・会話・ゲームなど）の要望も参考にしつつ、日本語教育・日本文化教育を実施し、年末の授業では、年賀状の作成、ふくわらいを体験することができた。

鶴城小中学校取り出し授業見学

授業見学時に、日本語教師が教材やテキストを持参し取り出し授業担当教師に紹介するなど情報交換が行われやすいようにした。また、お互いの疑問点を話しあい、今後も日本語教育についてお互いに知識と理解を深めていくことが、今後の取り出し授業の充実に繋がると実感した。

5 今後の課題

「文化の壁」「偏見の壁」「言語の壁」を取り除くパイプ役となり、各公立小中学校と NPO との連携の中で継続的な協力関係を構築することを目的とした。

今後は、EAS と碧南市内の公立小中学校ともうまく連携をしていける環境を整え継続的な交流を図っていくことが、外国人児童生徒を多く抱えるこの地域の課題である。

授業参観やプール開放については、公立小中学校の協力と許可があれば実施できる事業である。外国人学校は、公立小中学校のように施設が充分ではないため、お互いの学校での交流と連携をすすめつつ、教育環境の整備を図っていくことはとても重要である。

また、外国人学校での日本文化理解や、公立小中学校での外国籍児童に対する母国語（ポルトガル語）教育や、母国文化教育に対する指導が求められている。教師がお互いの学校で授業を行うことにより、交流や理解がより深まると考えられる。しかし、児童生徒が希望していても、学校間・教師間の交流がなければ不可能であるため地域をあげての連携が必要である。

外国人学校の児童生徒の日本語レベルは、過去の学習歴や家庭内言語によりさまざまである。EAS での日本語授業は、日本語を話せない児童生徒にレベルを合わせているため日本語を話すことができる児童生徒にとっては物足りない内容になっている。学習者に合わせた授業を実施することが望まれるが現実的には難しい。そこで、今回は市民による日本語教育・日本文化教育を実施したが、今後は外国人学校への日本語教師派遣が

必要だと考えられる。実際、児童生徒は、日本語学習を必要だと感じている。彼らの保護者は出稼ぎ労働から定住労働へと変化しつつある。今後は増加すると考えられる日本で学習し、進学し、就職する未来ある外国人児童生徒への対策を今すぐに考え直す必要がある。

西尾市の公立小中学校の取り出し授業では、日本語でのクラス授業についていけない児童生徒が対象であり、全教科クラス授業で受けられるように指導することを目的としている。しかし、現在の日本語教育授業担当教師は日本語教師でない。しかしながら、日本語教師が日本語教育授業に入るのが困難であるならば、今後は、日本語教師と連携をとりあいながら取り出し授業内容を企画することも必要である。取り出し授業教師に対する日本語教育についての情報交換・提供が盛んに行われることが、今後の外国籍児童生徒に対する必要な取り組みであると考えられる。

6 その他参考事

- ・予定していた全事業を無事に終わることが出来たのは、EAS との信頼関係をしっかりと築き、対象校への確実な情報提供・事前確認を行ったことによる。また、文化の違いを理解するように努力し、外国人学校へ適切なアドバイスを提供することも重要である。
- ・EAS では、年間行事が盛んであり開催前には必ずスタッフに招待の案内をいただいた。事業以外の活動でも、児童生徒や教師と親交を深めることはとても大切である。